

3サンハイツせけんぱな紙

第 7 号 令和 4 年 6 月 1 日

編集責任者
田島康弘 (3-101)
作成責任者
渡邊芳憲 (9-503)
編集委員
小松清明 (10-501)

空襲回数	空襲年月日	時刻	罹災状況		死者名	傷者名	被爆種別
			被災場所	罹災人口 罹災戸数			
1	昭和 20. 3. 18	7.50	郡元町海軍航空隊	名 戸	6	59	艦載機40
2	20. 4. 8	10.30	田上町、上荒田町、平之町、加治屋町、東千石町、新照院町	12,372 2,593	587	424	大型爆弾 250kg 60
3	20. 4. 21	8.00	長田町、山下町、東千石町、山之口町、樋之口町、平之町、城山トンネル入口	4,548 878			B29 時限爆弾
4	20. 5. 12	不明	港湾地帯	67 18			不明
5	20. 6. 17	11.05	市内一円	66,134 11,649	2,316	3,500	焼夷弾
6	20. 7. 27	11.50	鹿児島駅、車町、恵美須町、柳町、和泉屋町	8,905 1,783	420	650	ロッキード爆
7	20. 7. 31	11.30	鹿児島駅、清水町、池之上町、上竜尾町、下竜尾町	16,542 3,251			〃
8	20. 8. 6	不明	上荒田町、原良町、薬師町	6,817 1,789			不明
計				115,385 21,961	3,329	4,633	

昭和20年の空襲では、鹿児島市の昭和20年初期の疎開後の人口17万5千人の66%にあたる市民が罹災し、家屋も市街地の93%が焼失しました。

鹿児島空襲について

渡邊芳憲 (9-503)

6月行事予定

コロナの状況次第で中止もありえます 事前に確認を

- 5日(日) 鴨池小学校 日曜参観
- 9日(木) 火災予防運動の日 (毎月9日)
- 11日(土) 鴨池小学校 土曜授業
鴨池中学校
- 15日(水) 合同リサイクル
鴨池小学校正門・東門前 7:30~8:00
主催: 鴨池小学校、校区コミュニティ協議会
収集対象: 廃食用油、古本、制服、キッチン金属、ベルマーク、インクカートリッジ、トナー
- 17日(金) ダレデーモ・マナヴェール (成人学級)
学校教育と人権問題について
講師: 鴨池中学校校長 有村忠裕先生
場所: 鴨池中学校会議室
時間: 19:00~
- 24日(金) 鴨池小学校 学年・学級 PTA
- 30日(水) プティエコール (女性学級)
おいしいコーヒーのいれ方講座
講師: ラリーコーヒースタンド 山口さん
場所: 真砂福祉館
時間: 10:00~12:00

※お問い合わせ先: 鴨池校区コミュニティ協議会事務局
☎ 099-285-1522
(月・水・金 9:00~12:00 祝日休み)

団地内の野草

田島康弘 (3-101)

スズメノエンドウ(雀野豌豆)
2号棟東側の通路に沿った土手の上、木や垣根に絡まって生えていました。実はキヌサヤエンドウに似ていますが、ずっと小さいです。これと同じ形で大型のものがカラスノエンドウで、どちらも食べられるというので、私も食べてみたことがあります。が、硬くてとても食べられません。ところどころ、もう一つカラスノエンドウとスズメノエンドウの中間くらいの大きさのものがあるのですが、ご存じですか。これはカラスとスズメの中間という事でカスマグサ(カラスとスズメの間(マ)の草)と名づけられています。名前の付け方って何か適当な感じもしますね。



鳴池歴史散歩―鹿児島空襲編

渡邊芳憲（91503）

今回は、昭和20年3月18日から始まった計8回のアメリカ軍による鹿児島市空襲について、調べてみました。8回の空襲の中で、6月17日の空襲が最も大きく、最も悲惨だったとのこと。

昭和20年3月、沖縄戦が峠を越えたあと（アメリカ軍上陸開始4月1日）は、南九州における日本空軍の迎撃・対空砲撃能力はほとんどゼロとなり、完全なアメリカ空軍の制空圏下に入り、アメリカ軍機は自由に飛行、攻撃する状況でした。

① 3・18空襲

最初の空襲は3月18日。軍事施設である海軍航空隊鹿児島基地（本紙3・4号に関連）を狙ったものでした。午前7時50分頃桜島上空に現れた40機の空母艦載機が急降下爆撃しました。日本軍も応射し、1機のアメリカ機から黒煙が噴き始め、武岡方面に墜落しました。これ以降、アメリカ軍の爆撃は、無差別爆撃となり、非戦闘員に対する機銃掃射も行われました。

② 4・8空襲

2回目の空襲は、4月8日。この日は、いつもの防空練習もなく、また、空襲警報のサイレンも鳴らず、静かな日曜日であったそうです。空襲は突然始まりました。午前10時30分田上町方面で投下された爆弾が爆発しました。空襲警報のサイレンが鳴ったのはそれからでした。この日は、大型250キログラム爆弾約60個が投下されたそうです。

③ 4・21空襲

4月21日早朝5時44分警戒警報、6時9分空襲警報が発令され、市民は防空壕に避難しました。実際にアメリカ軍機が現れたのは、それから2時間近くたった8時頃で吉野方面から市中心部に向けて10数機が飛んできて、200個ほどの爆弾を投下しました。しかし、投下された数に比べて被害は多くなく、不発弾が多かったと考え

ていましたが、1時間ほど経過した頃、不発弾と思われた爆弾が突然爆発を始めました。鹿児島市は直ちに爆弾周りを立入り禁止とし、居住者などを立ち退かせました。この時限爆弾は5月末頃まで夜となく昼となく爆発を続けたそうです。

④ 5・12空襲

5月12日午後8時頃、沖縄基地から発進したグラマンなど20数機は初の夜間空襲を行いました。このときは、港湾施設のある港湾地帯を狙って爆弾、焼夷弾を投下したようです。

⑤ 6・17空襲

6月17日午後11時5分、13日頃から続いている梅雨の雨が降る中、1時間以上にわたり、波状的に推定で13万個の焼夷弾が投下されました。焼夷弾の中の固型油は屋根や壁にへばりつくとなかなか取れず、しかも発火しやすく高熱を発生して長時間燃え続けるため、それまでのバケツリレーでの消火活動など役に立たなかったようです。市内はたちまち火の海と化し、一晩中燃え続け、市民は阿鼻叫喚、右往左往して逃げ惑ったそうです。

この日の罹災状況は、被災人口6万6千143人、被災戸数1万1千649戸、死者2千316人、負傷者3千500人となっています。文字通り桁違いの被災状況でした。一夜明けた市内は、焼け野原となり、余燼がくすぶり、焼け焦げた死体が累々と連なる悲惨な状況となっていました。

これは、木と紙でできた日本家屋には、火攻めが効果的であるとみたアメリカ軍の戦略だったようです。

⑥ 7・27空襲

7月27日午前11時50分、夏の晴れ上がった昼間に鹿児島駅を目標に爆弾が投下されました。この時は鹿児島

島本線、日豊線両方向から列車が到着した直後で、ごった返して被害が拡大しました。また、初めて1トン爆弾が使われたとの証言もありました。

⑦ 7・31空襲

7月31日午前11時30分、ロッキードの編隊10数機が飛来し、上町一帯を爆撃しました。

⑧ 8・6空襲

ポツダム宣言受諾の9日前、8月6日午前12時30分ごろ空母艦載機が爆弾投下や機銃掃射を行いました。鹿児島市は既に廃墟と化していました。

